

オンライン作文・小論講座

文章博士

添削実例ーその8

中1 山口さやかさん作品

<http://bunshohakase.com>

■この添削実例はご本人および保護者の許可を得て作成したものです。
学年は作成当時のものです。

通常の添削とちがい、当講座では1作品を3回書き直す方式をとっているため、作品の完成度が高くなることが期待されます。作品が変化向上していくようす、詳しい添削レポートをごらんください。

制作・著作：考える学習をすすめる会

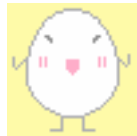
<<第1通目の作品と添削>>

山口さやかさんへ

こんにちは。お久しぶり！すっかり春になりましたね。

さやかさんのことですから、元気いっぱいの中学校生活を楽しんでいることと思います。作文の方も、新たな気持ちでがんばりましょう！

では、本日はまず私の自画像初公開から。



すみません。説明します。

私は「天才の卵」＝「天たま」といっしょに勉強する「天才の先生の卵」＝「先たま」だと自称^{じしょう}しています。

さやかさんが大傑作を連発する「作文の天才」になったとき、私も晴れて「天才の先生」＝「天せん」になることができます。

さあ、「作文の天才」目指して、今年度もいっしょにがんばりましょうね！



春休みにおばあさま達と奈良に行ったとのこと。奈良はすばらしかったですよね？

私も何度か行きましたが見るべきところが多く、さやかさんがぜひ作文でとりあげたいと思った気持ちがよくわかりますよ。

.....

世界遺産、法隆寺と中宮寺

山口さやか

私は春休みに、奈良へ行った。興福寺、東大寺、春日大社、唐招提寺、薬師寺、法隆寺、中宮寺へ行った。今回は法隆寺と中宮寺について書いてみる。(改行) 中宮寺とは、

聖徳太子の母親がまつられている小さなお堂です。中に入ると一枚の古い布が目に入った。やや見えにくいが見えきれいな刺繍がしてあった。大勢の僧や天女、飛天が刺繍されているのを見て私は「あっ。これは天国だな」と思った。でもなぜ天国を刺繍したのだろうか？

私の考えは、聖徳太子の死を嘆き悲しんだ太子の母親が、太子の死後の世界「天寿国」を想像して刺繍させたのではないか？という考えです (→「聖徳太子の死を嘆き悲しんだ太子の母親が・・・のではないか？」と私は考えます 「私の考えは・・・という考えです」だと、主語と述語の対応がおかしいですね)。太子が次の世界でも、華やかに楽しく暮らしてほしい。そんな様な思いがこめられていたのではないのでしょうか。(→母親の子を思う気持ちは切ないほどですものね・・・でも、実はこの刺繍を製作させたのは、太子の母ではなく、妃の橘太郎女のような)

お堂の正面にまつられる太子の母の像は、半跏惟像という女性如来でした。苦しむ人々をどう救おうか考えこむ姿の前で、しばらく立ち止まって見入った。

法隆寺は、五重塔や金堂などが中心に、中門、南大門等が広大な土地に建っていた。私は、法隆寺がどうして今まで焼けず、当時の姿のままなんだろう、不思議だなと思った。木造建築なのに、よく焼けなかったなあと思った。

いろいろな仏像を見てきたが、釈迦三尊像とか薬師如来像は聖徳太子ゆかりのもので、最高の宝を見ているようだった。千三百年前の人がつくったものを私達が見られて、また何百年先の人も見るんだなあと思った。

そして私たちの文化がどんなに進んでも法隆寺のようなすぐれた文化が基になっているんだとつくづく思った。

時間があれば、またゆっくりと来て見たいと思った。

.....

ところで、「お堂の正面にまつられる太子の母の像は、半跏惟像という女性如来」というのは、この方

↓のことですか？



もしこの方↑だとしたら、国宝の如意輪観世音菩薩にょいりんなんげおんぼさつだと思うのですが・・・。

菩薩様と如来様は、ちょっとお姿が違いますね。如来様というのは、例えばこんなお方↓です。



この作文で、また新たなさやかさんが登場しましたね。

古い文化遺産を愛で、日本文化の継承に思いをはせる知的な少女。

さやかさんの年頃ではなかなか仏像や古い木造建築の良さはわからないものかと思
っていましたが、大きな間違いだったようです。

ところで、このような観光名所の文化遺産については、様々な人々が数多くとりあげ
ています。ライバルが多いわけです。その中でさやかさんの作品を目立たせ、さやかさ
んの魅力をアピールするためには、「さやかさん独自の視点」「さやかさんの生き生き
とした感情表現」が必要になります。誰もが書くようなことを書いても魅力が出ません。

修学旅行の作文を思い出してください。例えありがたい仏様が相手でも、12歳の乙
女のぴちぴちした？感性を押し出したほうがお得ですよ。

鎌倉や御仏なれど釈迦牟尼は美男におはす夏木立かな

よさのあきこ
与謝野晶子

なんて詠んだ女性歌人もいましたし。

↓ワンランクアップ・レッスン（さやかさんを国語セレブにするミニ知識！）↓

実はこの「釈迦牟尼^{しゃかむに}」は晶子さんの間違いで、本当は通称「露座^{ろざ}の大仏」と呼ばれる国宝の「阿弥陀如来^{あみだにょらい}」像です。「鎌倉の大仏さん」と言ったほうがわかりやすいかな。その端正なお顔で有名だったとのことですが、この歌が詠まれた明治時代には、ありがたい仏様を「美男」＝イケメン呼ばわりするなんて、驚天動地^{きょうてんどうち}（＝世間を非常に驚かせること）の大胆^{だいたん}なふるまいだったわけです。だから、当時 27 歳の晶子さんへは非難^{かたがた}ごうごう。でも、この時代に先がけた自由闊達^{かっただ}な表現のおかげで、歴史に残る名歌となりました。

さやかさんは、もうふつうのレベルの作文は苦もなく書けるようになってしまいました。そろそろ同年代では書けないようなことに挑戦してもいい頃かな。レベルをグリーンと上げましょう。書く苦しみを味わうことにはなりますが、これを通り抜けたとき、さやかさんの作品は誰にもマネできないものになっていることでしょう。

そこで今回は、

1) 書く対象をできるだけしぼる

「天寿国曼陀羅繡帳^{てんじゅこくまんだらしゅうちょう}」「弥勒菩薩半跏像^{みろくぼさつはんかざう}」など、できれば一つ（か二つ）にしぼって書きこんでみてね。

2) しぼった対象について、資料（百科事典・ガイドブックなど）を読んでもみる

資料を読んでその内容を写せ、と言っているわけではありません。むしろ百科辞典の知識は最小限にとどめることが重要です。

対象の正式名称を確認したり、思い違いがないかどうか調べたり、資料からおもしろいネタや新たな感動を得ることがねらいです。

いくつか調べてから、おもしろそうな対象にしぼってもいいですよ。

3) 「さやかさん独自の視点^{とくじ}」「さやかさんの生き生きとした感情表現」を中心に書く

例えば、私も中学校の修学旅行で奈良・京都に行きましたが、なんと言っ
てもお気に入り



こうふくじ あしゅら
興福寺の阿修羅像。

与謝野晶子さんじゃないですが、「うーん、美形ー♪」とほれぼれ見つめちゃい
ましたね。いや、正直「鎌倉の大仏さん」↓よりずっと美男だと思います。



晶子さんとは恋のライバルになりそうにない・・・。

「ぴちぴちした感性」と言ってもこんな軽いことを書かなくてはいけないわけ
ではなく、もっと知的なことを書いてもいいんですよ。例えば、

①先だった夫のために繡しゅうちょう帳たちぼなのいらつめを作らせた橘太郎女の気持ちを想像する

②如意輪観世音菩薩の前でしばらく立ち止まって見入った理由を書く。

この菩薩様のどんな点が、それほどさやかさんをひきつけたのでしょうか。

↓ワンランクアップ・レッスン↓

この菩薩様の笑みは「アルカイクスマイル」の典型で、エジプトのスフィンクス、レオナルド・ダ・ヴィンチ作モナリザと並んで「世界の三大微笑像」と呼ばれているそうです。「アルカイクスマイル」和訳で「古典的微笑」とは、口角がきゅっと上がってかすかに微笑んでみえる表情のこと。ギリシアの初期の彫刻に特有の表情です。

③法隆寺の釈迦三尊像や薬師如来像がどうしてさやかさんにとって最高の宝なのか説明する

もちろん他のことをとりあげてもかまいませんよ。

実物を見ているとき、おばあさま達と交わした会話を入れてもいいかもしれませんね。

4) 文体を、「です、ます」調^{けいたい}か「だ、である」調^{じょうたい}に統一する
これは文章の基本ルールなので、気をつけてね。



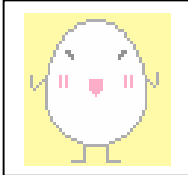
さやかさんにはぜひとも「作文の天才」になってもらいたいので、面白いこと、「あつ」と思ったこと、「じーん」としたことなどは、ちょこちょこっとメモをとっておくことをおすすめします。ゴールデンウィークなどは、ネタ探しの大チャンスですね。

連休明け、またさやかさんのすてきな作品を読ませてもらうのを、楽しみにしていますよ。

文章博士添削アドバイザー
竹下 加奈子

<<第2通目の作品と添削>>

山口さやかさんへ



こんにちは! 先たまこと竹下です。

ゴールデンウィークは楽しく過ごしましたか。さやかさんのことですから、冒険談がいくつかあるのではないかな。

いつか作文で教えてくださいね。

さて、作品の方ですが、**ぐっとよくなりましたね**。中学一年生の文章とは思えません。

仏様達を御両親に例えるとは・・・どれほどさやかさんがお二人に深く愛されているか、よくわかります。まいりました。私も一児の親として、さやかさんのお母様がうらやましい。私もいつか息子（五歳）に「菩薩様のようなだ」などと言われたい・・・（今は「鬼母」らしいですからー残念!）。



タイトル

中宮寺と仏像たち	法隆寺の釈迦三尊像の話も入っているの、変えましょう。
山口さやか	

起—出だし・・・中学生になったので、「起承（^{きしょうてんけつ}転）結」を使いますね。

私は春休みに奈良へ行った。興福寺、東大寺、春日大社、唐招提寺、薬師寺、法隆寺、中宮寺へ行った。今回は中宮寺のことについて書いてみる。(改行)	タイトルでもふれましたが、法隆寺のことも書いているので文を変えましょう。
	次の文から「承」に入りますので、改行しましょう。

- 1) 文尾に同じ言葉が続くと、なんとなくかっこ悪くなってしまうのが日本語の文章です（わざとそうして文章に独特のリズムを持たせる場合もありますが）。意識的に変化を持たせましょう。
- 2) 観たところを全部挙げる必要もないので、ここは以下のようにすっきりまとめてみましょう。

例：私は春休みに奈良へ行った。多くの寺社仏閣^{じしゃぶつかく}を見て回ったが、一番印象に残ったのは中宮寺と法隆寺だった。

承 1—発展 1

<p>中宮寺とは、太子の母穴穂部門人がまつられている小さなお堂である。このお堂は穴穂部門人の御所をお寺にしたものである。中に入ると一枚の古い布が目に入った。やや見えにくいが見えにきれいな刺しゅうがしてあった。大勢の僧や天女、飛天が刺しゅうされているのを見て私は「あっ。これは天国だな」と思った。でもなぜ天国を刺しゅうしたのだろう？これは天寿茶羅繡帳といって聖徳太子の死を嘆き悲しんだ橘太郎女が、太子の死後の世界『天寿国』を想い浮かべ刺しゅうさせたのではないかと私は考えた。太子が次の世界でも華やかに楽しく暮らしてほしい。そんな思いがこめられていたのではないのでしょうか（→だろうか）。(改行)</p>	<p>インターネットで調べると「間人」と出てくるのですが・・・。</p> <p>「天寿茶羅繡帳」という言葉はインターネットでは検索できませんでした。「天寿国曼陀羅繡帳」が正式名称だと思うのですが・・・。</p> <p>次の文から話題が半跏思惟像に変わるので、改行しましょう。</p>
---	---

穴穂部門人と天寿茶羅繡帳については、もう一度資料を確認してもらえますか。昔の人の名も歴史的遺物も通称があったり異説があったりしますので、さやかさんの資料にこのとおり記載されているのであれば、これでOKです。

承 2

<p>正面にまつられている穴穂部門人の像は、彌勤菩薩半跏思惟像という女性菩薩であった。頬に右の指先をそっとあてほほえむ表情は、世界三微笑の一つと伝えられている(→言われている)。私は苦しむ人々をどう救おうか考えこむ姿の前で、しばらく立ち止まって見入った。(改行しない)</p> <p>なぜ見入ってしまったのか。それは微笑するそのやさしくておだやかな顔が、自分の母のやさしい顔に似ていたから</p>	<p>「伝えられている」とは、「昔のことで事実かどうかわからないが、そのような内容の言い伝えや文書が残っている」という意味。「世界三微笑」は現在言われている事なので。</p> <p>いいですね！</p>
--	---

だ。見ているだけでも、胸の辺りがほんわかと温かくなってくる。祖母が「やさしくてあたたかいお顔を持つ菩薩さまだねえ」とつぶやいた。私もそのとおりだと思った。	—なんて素敵なお母様なんでしょう。
---	-------------------

承 3

そして、法隆寺の釈迦三尊像はもう私にとって最高の宝だ。 わけ (→その理由) は日光菩薩と月光菩薩が釈迦如来を守っている姿が、私の両側に、両親たち (→とる) がいる姿と同じだからだ。我が子を守るようにいつもそばにいてくれる両親が日光菩薩と月光菩薩に思えた。	「わけは」は言葉です。 「両親たち」は「何組かの父母」という意味ですね すばらしい親子関係ですね!
--	---

この部分を読んで、お父様もお母様も大喜びなさったのではないですか？ なかなか親の思いは子に伝わらないものですから。

さやかさんは、御両親の愛情をしっかりうけとめて感謝しているところがすばらしい！

転—ちょっと視点を変えて書く

仏像 (→このような歴史的遺産) は今は私達が見ているが、また何百年も先の人たちに受けつがれていく。	「續帳」の話もあるので
--	-------------

ここはもう少しふくらませたいところです。前作のように過去への視点も入れ、過去・現在・未来がつながっていくイメージを描いたほうが感動的です。

例：このような歴史的遺産を作った人々は、とうにこの世にいない。だが、彼らの思いがこめられた芸術品は千年以上の時を超え・・・

結—まとめ

時間があれば、またゆっくりと来て見たいと思った。	
--------------------------	--

うーん、この結は弱い……。せっかくここまで迫力ある内容で来たので、例えば、「優れた文化遺産は、こうして、世代を越えて感動を与え続けるものなのだろう」のようなことを書いて、かっこよく締めて欲しいな！



さやかさんは、本当に文章が上達しました。文法的には、あまり直すところがありません。

今回最も重要な宿題は、

転をふくらませる

結をかっこよくする

です。

普通レベルの中学一年生なら今回程度の転・結でもう十分ですが、さやかさんならもっと深く・かっこよく書けます。この二カ所が制覇できればこの作品は傑作になります。

それから、これで申し込んでくれた課題は一応終わりとなりますので、三つの課題に取り組んだ感想なども書き添えてくれるとうれしいです。

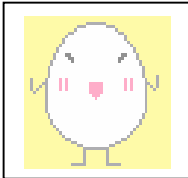
いよいよ次回は最終回。先たまをひれ伏させるような大傑作に仕上げ、送ってくださいね。



文章博士添削アドバイザー
先たまこと竹下 加奈子

<<第3通目の作品と添削>>

山口さやかさんへ



こんにちは! 先たまこと竹下です。

今回で、申し込んでくれた課題文は全て修了です。

去年、初めてバトミントンの作文を読ませてもらったときのことを考えると、さやかさんの成長の大きさにじーンとくるものがあります。

では、最後に、細かいところを見ていきましょうね。



<p><u>中宮寺と仏様達</u></p> <p style="text-align: right;">中1 山口さやか</p> <p>私は春休みに奈良へ行った。多くの寺社仏閣を見て回ったが、一番印象に残ったのは、中宮寺と法隆寺だった。</p> <p>中宮寺とは、<u>聖徳</u>太子の母穴穂部間人がまつられている小さなお堂である。このお堂は穴穂部間人の御所をお寺にしたものである。中に入ると一枚の古い布が目に入った。やや見えにくいが見えきれいな刺繍がしてあった。大勢の僧や天女、飛天が刺繍されているのを見て私は「あっ。これは天国だな」と思った。</p> <p>でもなぜ天国を刺繍したのだろうか？これは『天寿国曼陀羅繡帳』と<u>いうて</u> (<u>→いうものだが、</u>) 太子の死を嘆き悲しんだ<u>妃</u>の橘太郎女が、太子の死後の世界『天寿国』を想い浮かべ刺繍させたのではないかと私は考えた (<u>→とる</u>)。太子が次の世界でも華やかに楽しく暮らしてほしい。そんな思いが込められていたのではないだろうか。</p> <p>正面にまつられている穴穂部間人の像は、<u>彌勤菩薩半跏思惟像</u>という<u>女性菩薩</u>であった。<u>頬に右の指先をそっとあててほほえむ表情は、世界三微笑の一つ</u>と言われている。私は苦しむ人々をどう救おうか考え込む姿の前で、しばらく立ちどまって見入った。</p> <p>なぜ見入ってしまったのか。それは微笑するそのやさしくておだやかな顔が、自分の母のやさしい顔に似ていたからだ。見ているだけでも、胸の辺りがほんわかと温かくなってくる。祖母が「やさしくてあたたかいお顔を持つ菩薩さまだねえ」とつぶやいた。私もそのとおりで思った。</p> <p>そして、法隆寺の釈迦三尊像はもう私にとって最高の宝</p>	<p>前回は触れましたが、法隆寺のことも書いているのでこのタイトルは不適切。「中宮寺と法隆寺」とか、思い切って「時を超えるしほう至宝」とか。もう添削はありませんが、もったいないので、ぜひかっこいいタイトルを考えてみてね。</p> <p>作文は元々「私の考えた(思った)こと」を中心に書いているので、原則的に「私は・・・と考えた(思った)」という言葉は不要です。</p> <p><u><ワンランクアップ・レッスン></u> 本来仏様は全て、性別を超えた存在なのです。でも、この菩薩様は、本当に女性としか思えない、柔らかな方ですよ。</p>
--	--

<p>だ。その理由は日光菩薩と月光菩薩が釈迦如来を守っている姿が、私の両側に、両親がいる姿と同じだからだ。我が子を守るようにいつもそばにいてくれる両親が日光菩薩と月光菩薩に思えた。</p> <p>このような歴史的な遺産を作った人々は、とうにこの世にはいない。だが、彼らの思いがこめられた芸術品は、千年以上の時を超え、<u>現代の私たちが鑑賞している。そしてまた、何百年も先の人たちに受けつがれていくだろう。</u> <u>こうした優れた文化遺産は世代を越えて、さらに多くの人々に感動を与え続けるだろう。私はそう信じる。</u> <u>(→優れた文化遺産は、世代を越えて、多くの人々に感動を与え続けるのだ。)</u></p>	<p><ワンランクアップ・レッスン> 「こうした」という意味を限定する言葉はこの場合使わない方が、「あらゆる優れた文化遺産」というイメージになり、スケールが大きくなります。</p> <p>比較の対象が不明なのでとろう。</p> <p>この場合、最後は「のだ」と言いかけたほうがカッコいいと思うな。</p>
---	---



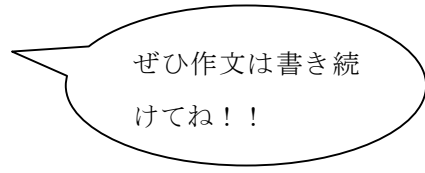
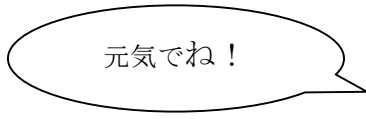
最後なので細かく直しましたが、これは**本当に上手な作文**です。中学一年生でここまで書ける子はそういません。自信を持ってね。

そして、バトミントンの作文と比べてみてください。あの作品も元気少女の熱いハートが表現されていてとても良かったのですが、「ものごとを独自の視点で考える」という点では、今回の作品と段違いの差があります。

それだけさやかさんが、飛躍的に進化したのです。
そして、もっともっと進化する可能性を感じます。
さやかさんは、きっと、**作文の天才**になれますよ。

これでいったんお別れとなりますが、ぜひ、以前おすすめした「投書写し」は続けてくださいね。世の中の大人が何を考えているかを知り、自分ならどうするかを考える、良い訓練となります。

そしていつかどこかで（新聞？雑誌？）、作文の天才になったさやかさんと再会できるのを、楽しみにしています。



文章博士添削アドバイザー
先たまこと竹下 加奈子